

令和2年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間・最終)

広中央中学校区 校番4 学校名 広中央中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
確かな学力の育成	学力の向上を図る。	(1)広中央中学校区の授業スタイルを取り入れた授業改善を継続的に実施する。	「広中央中学校区の授業スタイルを取り入れて授業を行った」は96%である一方「本時の目標に対して、適切に評価しやすい学習課題を設定している。」「『まとめ・振り返り』の段階で、学習内容を定着させるための指導をしている。」と回答した教職員の割合は90%程度であり、この点が課題である。なお、「基礎・基本」定着状況調査と全国学力・学習状況調査については、今年度は実施していないため、3学年の学力調査結果と2学年の業者テスト(全国)を使った。	さらなる「広中央中学校区の授業スタイル」の定着に取り組む。「振り返り」は、従来の「生活と関連させる」ことで有用感を認識するだけでなく、「自分の学びの状態を自覚し、自己調整をする」という機能に変遷しており、見取りの方法についても今年度すでに校内研修したので、実施に向けて取り組んでいく。
		(2)学習規律の徹底、教室環境の整備、家庭学習の習慣化を図る。	「落ち着いた授業に取り組んでいる」と回答した生徒の割合は、中間報告同様、目標を超えて達成することができた。これまで全職員で取り組んできた生徒指導の結果と言える。 一方、「指定された学習時間を守って勉強できている」という生徒の割合は1年:69.5%、2年:42.3%、3年:51.5%で、平均すると54.4%となり目標値を下回った。家庭学習習慣の定着が不十分である点と、宿題以外に自主的に取り組む生徒が少ないことが原因と考えられる。	家庭学習習慣の定着を図るために、保護者とさらなる連携をしていく必要がある。また生徒には学力を高める必要性を感じさせ、将来の進路選択につながっていることを理解させる必要がある。 宿題の量に対して様々な意見があるが、放課後等を使ってやらせざる指導が必要である。一方で働き方改革の観点から勤務時間内にその指導をすることが難しいジレンマがある。
豊かな心・たくましい体の育成	自尊感情の高揚を図る。	(3)生徒指導規程に則った指導を組織的に実施する。	「はい」という返事をはっきりした声でしているという解答をする生徒の割合は92.7%だった。生徒会執行部が積極的にあいさつ運動を行ったり、教員が積極的に声かけを行っている成果だと考える。最後まで人の話を聞いてと回答する生徒の割合は95.3%、きまりを守って生活できていると回答する生徒の割合は98.1%だった。生徒指導規程に則った指導を全教員で各学年行ってきたことで授業を落ち着いた受ける事ができる生徒が増えた。	引き続き、返事や挨拶などを生徒自身が積極的にいえるような取組や言葉かけが必要である。今後も生徒指導規程の見直しを行っていき、生徒や保護者にも周知徹底していく必要がある。担任、教科担当、学年担当、部活動顧問などが連携を図りながら組織的に生徒一人一人をみていく。
		(4)生徒の言動に対して肯定的な評価を実施する。	自分には良いところがあると回答する生徒の割合は81.6%だった。今年度は新型コロナウイルス感染症の関係で、多くの行事が中止となったが、昨年度と同様に3年生の面接練習などで自分の良いところを言うようにした指導の成果だと考えられる。目標は達成したが、今後の受験形式の変更に備えて多くの生徒が自己PRできるようにしていかなければならない。	生徒を肯定的な評価をできるように取組を生徒会などを通してやっていきたい。来年度は昨年度も計画していた新入生歓迎会などで縦のつながりを作っていき、自己有用感を感じるような取組をしていきたい。
豊かな心・たくましい体の育成	体力の向上を図る。	(5)呉市・校区・本校での重点目標の達成を図る。	今年度は新型コロナウイルスの影響で新体力テストが実施できなかったため全国平均や県平均と比較することはできない。 週3回の授業は真面目に受けているものの、コロナ禍での運動不足・教室のエアコン設置・部活動時間の減少などにより、全体的に運動不足となり体力の低下は否めないと考えられる。しかしながら生徒は体を動かすことを楽しみにしており、楽しく運動を行う生徒が多い。	数年前と比べ、新型コロナウイルス・熱中症・エアコン設置・部活時間の減少など運動不足になりやすい条件が増している。しかしながら限られた時間を上手に活かすことにより体力の低下を防ぐことはできる。そのためには運動嫌いの生徒を作らないという基本に戻り授業や部活動などを楽しく行えるよう指導の工夫をしていくことが重要と考える。
		(6)保護者や地域への情報発信の充実を図る。	「広中央中学校の教育に対して、満足している」と回答した保護者は94.4%と目標を上回った。定期的に発行している学校通信や学年通信、また緊急の連絡に使っている安心メール、さらに本校ホームページでの情報発信などが影響した結果と考える。また、地域や保護者からの要望に対し、迅速かつ適切に対応していることも影響していると考えられる。	今後も継続して行事等の生徒の様子や頑張りなどを学校通信や学年通信、安心メールやホームページ等で情報を発信していく。
信頼される学校	生徒・保護者・地域から、今まで以上に信頼される開かれた学校づくりを行う。	(7)教職員の指導力・職能の向上を図る。	「学校生活が充実している」と回答した生徒は、93.2%と目標を上回った。多くの生徒が落ち着いた学校生活を送ることができている表れと考える。各学年での迅速で、きめ細かい生徒指導や「めあて」と「まとめ」の整合性や「振り返り」の活用での学習意欲を高めている教科指導が大きく影響していると考えられる。これらの指導力を向上していくために、学年部会や分掌部会、校内研修等において、生徒への様々な指導についての研修を行っていることが教職員の指導力を向上させていると考える。	生徒への指導に関して、見通しを持って計画的、組織的に進められており、今後も継続して取り組んでいきたい。教科指導の研修に関しては、年2回、学校全体での研究授業を行っていく計画であるが、個々の教科指導力を高めていくため、来年度は1人1回の授業研究を行うなどの改善が必要であると考えられる。
		(8)課題を一人で抱え込まず、組織的に取り組める教職員集団を構築する。	組織的に業務に取り組んでいると感じる教職員は、目標を上回った。生徒と向き合う時間の確保は評価はBであるが、達成率86%でほぼ目標達成できた。各学年部での指導体制が確立されていることが大きく影響していると考えられる。さらに、職員室が明るい雰囲気でも何でも相談できたり、職員同士の仕事のシェアやサポート体制があることもこのような結果になった要因だと考える。時間外勤務については、45時間を超えたのは、26人中12人と、前回は下回った。生徒についての連携や事務処理、教材研究等の業務は、これまでほとんど変化がないが、部活動の時間が冬時間になったことで達成できたと考えられる。また、仕事を効率的に進めるなど、職員のタイムマネジメント意識も向上してきていると感じる。	全教職員がさらにタイムマネジメント意識を高め、効率的に業務が進めていけるように、職場全体で声かけを行っていく。また、時間外勤務が45時間を超えている教職員について、その業務内容を分析し、学年や分掌で業務分担をしたり、仕事内容を精選したりするなどして、業務の効率化を図るための工夫をさらに進めていく。
業務改善	広中央中学校に勤務してよかったと感じることができる教育環境整備を行う。	(8)課題を一人で抱え込まず、組織的に取り組める教職員集団を構築する。	組織的に業務に取り組んでいると感じる教職員は、目標を上回った。生徒と向き合う時間の確保は評価はBであるが、達成率86%でほぼ目標達成できた。各学年部での指導体制が確立されていることが大きく影響していると考えられる。さらに、職員室が明るい雰囲気でも何でも相談できたり、職員同士の仕事のシェアやサポート体制があることもこのような結果になった要因だと考える。時間外勤務については、45時間を超えたのは、26人中12人と、前回は下回った。生徒についての連携や事務処理、教材研究等の業務は、これまでほとんど変化がないが、部活動の時間が冬時間になったことで達成できたと考えられる。また、仕事を効率的に進めるなど、職員のタイムマネジメント意識も向上してきていると感じる。	全教職員がさらにタイムマネジメント意識を高め、効率的に業務が進めていけるように、職場全体で声かけを行っていく。また、時間外勤務が45時間を超えている教職員について、その業務内容を分析し、学年や分掌で業務分担をしたり、仕事内容を精選したりするなどして、業務の効率化を図るための工夫をさらに進めていく。